

「数の多さによらず」  
士師記 6 章～8 章  
～ギデオンの生涯～

はじめに

モーセの後継者ヨシュアの後、民は主の前に悪を行い、その地の神々（偶像）に仕えるようになりました（2:10-15）。そこで、主は「さばきつかさ」（士師）を起こされました。このさばきつかさ時代は約 200 年間で、やがて民は王を求め、王政に移行することになります。それまでの時代をこの「士師記」が伝えています。

今日は、さばきつかさの一人ギデオンを学びましょう。彼の前に、オテニエル、エフデ、シャムガル、デボラなどのさばきつかさがいて、ギデオンは5人目でした。

士師記では、ギデオンとサムソンの働きが詳しく伝えられています。

ギデオンの生涯について、1. 神からの召命 2. ミデヤンとの戦いと勝利 3. 晩年に分けて見てみましょう。

1 神からの召命（6章）。

ギデオンの時代は、ミデヤン人の攻勢に合い、イスラエル人はそれを逃れて山々の洞窟や、ほら穴に住みました。地の産物、羊や牛やろばのえささえも奪われました。イスラエルは非常に弱くなり、主に叫び求めました（6:1-10）。

（1）主に抵抗し、しるしを求める（11-23）。

民の叫びに答えて、主の使いがギデオンのところに来ました。ギデオンは、ミデヤン人から逃れて、酒ふねの中で小麦を打っていました。主の使いは「勇士よ。主があなたといっしょにおられる」と声をかけました（12）。

それに対しギデオンは、「ああ、主よ。もし主が私たちといっしょにおられるなら、なぜこれらのことがみな、私たちに起こったのでしょうか。・・・今、主は私たちを捨てて、ミデヤン人の手に渡されました」（13）と答えました。

主は「あなたのその力で行き、イスラエルをミデヤン人の手から救え、わたしがあなたを遣わすではないか」と励まします（14）。ギデオンはさらに、「ああ、主よ。私にどのようにしてイスラエルを救うことができますでしょうか。ご存知のように、私の分団はマナセのうちで最も弱く、私は父の家で一番若いのです」と、自分の部族の弱さと、自分の若さを言い訳にして、さらに神に抵抗します（15）。

主は、「わたしはあなたといっしょにいる。だからあなたはひとりを打ち殺すようにミデヤン人を打ち殺そう」と言われました。

ところが、ギデオンはまだ懲りず、「お願いです。私と話しておられるのがあなたであるというしるしを、私にみせてください」とせがみます。

**適用：**神様から呼ばれるとき、弱い私たちは躊躇します。モーセも、イザヤもそうでした。自分の能力や年などを口実にします。そして、何か確かなものを求めようとします。神様が私を選んでくださったのだから大丈夫という信仰によっ

て受け入れればよいのです。

## (2) 祭壇を築き、主に従う者となる (24-32)。

神様がしるしに答えてくださると、ギデオンは、一変して、「ああ、神、主よ。私は面と向かって主の使いを見てしまいました」と言って恐れました。そしてそこに主のために祭壇を築き、アドナイ・シャロム（主は平安）と名付けました。

主は、ギデオンに父の持っているバアルの祭壇を取り壊し、アシュラ像を切り倒し、とりでの頂上に主の祭壇を築くように、お命じになりました。

ギデオンは、家族や町の人々を恐れ、夜に行いましたが、町の人々は翌朝それを知ると、ギデオンを殺そうとしました。

ところが、父は、「もしバアルが神であるなら、自分の祭壇が取り壊されたのだから、自分で争えばよいのだ」と言ってギデオンをかばいました。

**適用：** 私たちに当てはめると、入信、回心です。神を信じ、罪を悔い改めて、新しい生き方に入ります。

## (3) 主の霊がギデオンをおおう (34)

ギデオンの信仰が明確になると、主の霊がギデオンをおおいました。そして角笛を合図に、人々がギデオンのもとに集まってきました。

**適用：** キリストを信じた者には、聖霊が与えられます。聖霊は、信じる者ととも、信じる者のうちにおられます。聖霊に満たされた生活をするときに、協力者が集まります。

**決断：** その選びと使命にあなたは応えていますか。そのためにあなたは、この選びと使命を達成するために何をしますか。

## 2 ミデヤン人との戦いに勝つ (7章)

ミデヤン人との戦いに備え、ギデオンのもとに集まった人々は、陣を敷きました。

### (1) 民の選別 (1-8)

主はギデオンにまことに意外なことを言われました。「あなたといっしょにいる民は多すぎるから、わたしはミデヤン人を彼らの手に渡さない。イスラエルが『自分の手で自分を救った』と言って、わたしに向かって誇るといけないかた。今、民に聞こえるように告げ、『恐れ、おののく者はみな帰りなさい』と言え」。すると、2万2千人が帰り、1万人が残りました。主は、まだ多いと言われ、結果的に、3百人が残りました。ミデヤンの兵士は13万人です。

どうして、これで戦えるのでしょうか。

**適用：**私たちは、どうしても自分の力や知恵や、人数に頼ります。しかし、戦いは、神様のものです。伝道もクリスチャン生活も同じです。神様の働きを求めましょう。さがみのキリスト教会も人の力ではなく、神様の力を求め、神様が働いてくださることを信じ、求める教会になりましょう。

## (2) ギデオンは勝利を確信し、主を礼拝する (15)

主はギデオンに勝利を約束なさいました (9-11)。さらに、ギデオンは夢の話を聞いて勝利を確信し、主を礼拝したのです (15)。

**適用：**クリスチャン生活で最も大切なのは、奉仕や伝道ではありません。主を礼拝することです。礼拝なしに奉仕や伝道をしては失敗するだけです。このことが分かっているクリスチャンが割合少ないので、皆さんはよく心得てください。

## (3) 奇妙な武器 (16)

ギデオンは、3百人を3隊に分け、全員の手角笛とからっぽのつぼを持たせ、そのつぼの中にたいまつを入れさせた (16)。

真夜中に3隊の者が角笛を吹き鳴らし、つぼを打ち砕き、たいまつを握って、「主の剣、ギデオンの剣だ」と叫ぶと、敵陣では全面にわたって、同士討ちが起き、ギデオン陣営は、大勝利をおさめました。

**適用：**戦いの勝利は、人数の多さではないことは先に示されました。そしてまた、武器の種類でもないのです。最良の伝道武器をもっている教会が祝され、良い武器を持たない教会が祝されないということはないのです。

## 3 晩年 (8章)。

晩年のギデオンは、明暗に分かれます。

### (1) 正しい判断 (23)

イスラエルの人々は、「あなたも、あなたのご子息も、あなたの孫も、私たちを治めてください。あなたが私たちをミデヤン人の手から救ったのですから」と願いました。

これに対しギデオンは、「私はあなたがたを治めません。また、私の息子もあなたがたを治めません。主があなたがたを治められます」と答えました。

ギデオンは、力と地位への誘惑に勝ち、民の目を正しく神様に向けさせました。

**適用：**教会を治めるのはだれでしょう。牧師や長老はその誘惑に会います。しかし、

教会を治めておられるのは、主です。牧師・長老は、教会員に主を見上げ、主が教会を治めておられることを教え続けなければなりません。

## (2) 間違った判断とその結果 (24-27 33-35)。

しかし、同時にギデオンは間違った判断をしてしまいます。彼は民に分捕り物の耳輪を求め、集まったものでエポデを作ったのです。エポデは、祭司が身に付けるものです。王になる誘惑には勝ちましたが、祭司になる誘惑に負けてしまったのです。祭司にはだれでもなれるわけではなく、レビ族のうちのアロンの子孫に限られていました。マナセ族のギデオンがなれるわけもないのですが、エポデを作ると、民はそれを偶像のように慕い、淫行をを行ったというのです。

勝利の後の判断が大切です。

**適用：**霊的誘惑もあります。信仰の強さ。異言や預言をする力。祈りなどによって、人々を自分に惹きつけようとする誘惑です。

### 結論

ギデオンは、主の召命に応え、主に仕える者になりました。そして、主のみことばに従うことによってミデヤンに勝利しました。

戦いの勝利は、人間の能力でも、数の多さでもありません。主が勝利を与えて下さるのです。

私たちも同じです。神様が私たちとともにいてこの世の罪や悩みや苦しみに勝たせて下さるのです。聖霊の力にすがりましょう。主がともにいてくださることを確信しましょう。

あなたは、主の召命に応えていますか。主の働きに目を留めていますか。主を信じましょう。主のお働きを求めていきましょう。

### 勧め

「主イエスを信じなさい。そうすればあなたもあなたの家族も救われます」(使徒 16:31)

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」(ヨハネ 3:16)